経殿は黒登山の御 此宮ハ多治なされし故に
宮の腰前に振世遠ひけるも 此宮の事
甚説多し 略之 扨又斎藤別当実盛の事 保
元之年に源家の親まで従ひその二君に限なし 木曽
義仲に属するの時 手塚太郎金刺光盛に討れけ
り 魂魄此国の街にて悪虫となりて五穀を
害す 其形甲冑を着したるが如し 世俗実盛
虫といひて百姓共送りに何虫を送る 実盛殿を
送るといひて声々ば斎藤三郎なかへつかるへの来

流なれば太刀なりし理なり

余目之城合戦義光引退事

修羅堂の中に乾坤を握り夜叉是たゞ泥龍を
踏む斎藤安保家の老臣佐藤仁衛門基忠といへるは
陸奥国信夫の郷の住人佐藤庄司基治が末葉なり
庄司目田子秀郷に十代の後流なり 文治三年丁未
月九日秀郷九十三才にて逝去せられ其
後文治五年八月八日頼朝公泉冠者泰衡退治